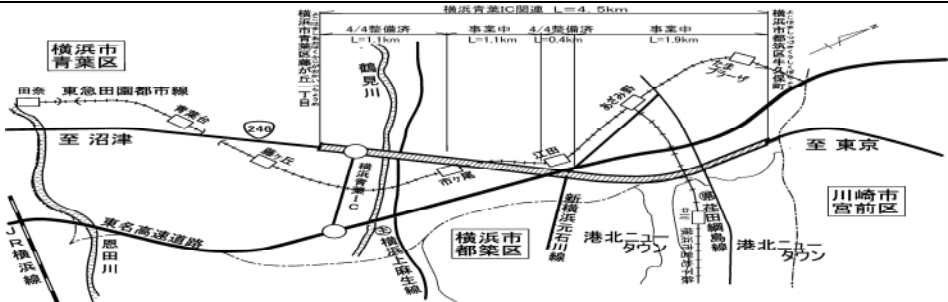


## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：中島威夫

<b>事業名</b> 一般国道246号横浜青葉IC関連	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省	<b>延長</b> 4.5km
<b>起終点</b> 自：神奈川県横浜市都筑区牛久保町 至：神奈川県横浜市青葉区藤が丘一丁目		<b>延長</b> 4.5km	
<b>事業概要</b> 一般国道246号は、東京都千代田区を起点として、川崎市、横浜市を通過し、静岡県沼津市に至る延長130kmの主要幹線道路です。 横浜青葉IC関連は、東名高速へのアクセス性の向上、交通渋滞の緩和、道路の環境改善を目的とした、延長4.5kmの拡幅及び交差点部の立体化事業である。			
<b>S50年度事業化</b>		<b>S39年度都市計画決定 (S54年度変更)</b>	
<b>S53年度用地着手</b>		<b>S61年度工事着手</b>	
<b>全体事業費</b> 約800億円		<b>事業進捗率</b> 53%	
<b>計画交通量</b> 65,500台/日		<b>供用済延長</b> 1.5km	
<b>費用対効果分析結果</b> (※1)	<b>B/C</b> (事業全体) 2.7 (残事業) 4.1	<b>総費用</b> (残事業/事業全体) 238/359億円 (事業費：222/343億円 維持管理費：16/16億円)	<b>総便益</b> (残事業/事業全体) 979/979億円 (走行時間短縮便益：905/905億円 走行費用減少便益：62/62億円 交通事故減少便益：12/12億円)
<b>基準年</b> 平成15年			
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保（現道における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される） ・個性ある地域の形成（拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模プロジェクトを支援する） 他11項目に該当			
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 横浜青葉IC関連事業は、横浜市都市計画マスタープラン・青葉区プランで快適で利便性の高い交通システムのあるまちづくりを目指して、渋滞交差点の円滑化対策として位置づけられている。			
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 港北ニュータウン事業完了、関根地区画整理事業完了等により新石川交差点等の交通渋滞はますます深刻化している。			
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 順次整備を進めており、現在までに江田地区（L=0.4km）及び市ヶ尾地区立体部（L=1.1km）について供用している。			
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 平成15年度に市ヶ尾地区拡幅部（L=0.7km）が供用し、引き続き平成16年度、市ヶ尾地区拡幅部（L=0.4km）、平成17年度に新石川地区立体部（L=1.1km）が供用予定である。			
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 工事施工にあたって、コスト削減に資する調達方法の採用や新技術の積極的活用導入などのコスト削減に努める。			
<b>対応方針</b> 事業継続			
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
<b>事業概要図</b>			



(※1) 事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。